

那須平成の森は、2011年につくられた。この森は、旧那須御用邸の半分近くを占めており、以前は皇族方が使用される土地であった。2008年、明仁天皇(在位1989～2019)が天皇即位20周年を記念して環境省に土地を譲渡された。約560ヘクタールの広大な敷地には、自然を大切にしながら、自然と触れ合うことができる環境がある。那須平成の森は、日光国立公園の一部として2011年に開園した。

20世紀以前、現在平成の森を占めている土地は伐採、馬の放牧に利用されていた。この土地が那須御用邸の一部になると、利用は制限され、自然林に戻った。この幼齢林は今日でも成長を続け、成長林となり、適切に保全されれば、いつか世界で最も原始的な生態系の一つになる可能性がある。

フィールドセンターは森林の中核施設として機能しており、ふれあいの森と学びの森の2つのゾーンの玄関口としての役割を果たしている。車椅子でのアクセスが可能なふれあいの森は、誰もが那須の自然環境と自由に触れ合えるようにという明仁天皇の願いを叶える場所である。遊歩道を自由に散策することができ、あらゆる年齢層や体力の人に適している。

栃木県立博物館は、1997年から2001年の間に、那須御用邸内で3,492種の野生生物を特定した。そのうち23種はこれまで記録されていなかった種で、25種が日本で初めて記録された。この生態系の多様性を維持し、研究することは、平成の森の2番目のエリアである学びの森の目的である。科学的研究はこの学びの森で継続的に行われ、インタープリターとして知られる経験豊富な自然愛好者が同伴するガイドツアーでのみ入場が可能である。